平成２２年度
目黒区学力調査と改訂授業改善プラン

Ⅰ　「目黒区学力調査」の概要

Ⅱ　「目黒区学力調査」に基づく授業改善プラン

・全体構想

・第２学年～第６学年

Ⅲ　第１学年の授業改善プラン

平成２２年７月

目黒区立東根小学校

Ⅰ　「目黒区学力調査」の概要

１　調査の趣旨

目黒区立小・中学校の児童・生徒に「学力調査」を実施し、児童・生徒の学習状況を組織的・継続的に調査・分析するとともに、各学校の指導法やカリュキュラムの改善・充実を図り、学力の定着・向上を目指す。

なお、本調査は、目黒区立小学校の第２学年～第６学年の児童及び目黒区立中学校の全学年生徒を対象に実施された。

２　調査の内容

(1)　調査の対象学年及び対象児童数（本校）

	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年
対象数	８２　人	１０２　人	１０８　人	１０３　人	１２８　人
実施数	８２　人	１０２　人	１０８　人	１０３　人	１２８　人
受検率	１００　％	１００　％	１００　％	１００　％	１００　％

(2)　調査内容と実施教科

①　学習指導要領に示された目標の達成状況（観点別学習状況）

②　児童の学習に関する意識

２年　意識調査、国語、算数

３年　意識調査、国語、算数

４年　意識調査、国語、算数、理科

５年　意識調査、国語、算数、理科

６年　意識調査、国語、算数、理科、社会

(3)　実施日

平成２２年４月１３日（火）

Ⅱ　目黒区学力調査等に基づく授業改善プラン

学　校　教　育　目　標

○考える子　　（かしこく）
○仲よくする子　（なかよく）
○たくましい子　（元気よく）

教育課程届における指導の重点

・体験的な学習や基礎的・基本的知識及び技能を活用した課題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習を促すように工夫する。
・児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実する。
・児童一人一人の意欲や特性に応じた少人数指導やＴＴを算数科で実施し、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに個に応じた指導を推し進める。また、指導方法の共通理解を図り、評価の改善に努める。
・児童一人一人が互いのよさを認め合い、学び合い、高め合う授業を工夫し、教師と児童、児童同士のコミュニケーションを取りながら、一人一人のよさを伸ばしていく。
・異学年との合同授業や学年間の交換授業、教師同士のＴＴ、学習指導員の活用、学校職員や保護者・地域の人材を活かした授業などを積極的に取り入れ、児童一人一人のよさを複数の指導者で伸ばし育てる。

本校の授業改善に向けた視点（学校全体）

指導方法等の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研修・研究の工夫	評価の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・各教科の学習において基礎的・基本的内容の定着を図る。 ・算数科においては少人数指導やＴＴ指導を実施し、習得型の指導と探求型の指導を効果的に授業に組み入れる。 ・特別学習期間を活用して、児童が課題をもって取り組めるようにする。	・新学習指導要領をふまえた教科指導を展開する。 ・「学習タイム」の活用等で教科指導の時間の確保を図り、基礎的・基本的な学習の定着を図り、学習課題の取り組みを図る。	・校内研究のテーマ「学び合い、高め合う子どもの育成～国語科学習指導の工夫を通して～」にそって、本校の子どもの課題であるコミュニケーション能力の育成を図る。	・各教科の評価規準を基に、指導と評価の一体化を図り、児童の学習の実態を把握して常に改善を目指す。 ・学力調査の結果を参考に児童一人一人が自分の課題を見付け学習に取り組む。	・個人面談や保護者会で学習や生活の状況について話し合い、連携を深め、子どものよりよい育成を図る。 ・十中校区でのあいさつ運動等を通して地域の方々との交流を図る。

目黒区立東根小学校　第２学年

区学力調査の結果等から見られる成果と課題			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
説明的文章を読んで、文脈に即した内容の理解と記述の正答率が高い。「言語事項」においては、漢字の読み書きについては、ほぼ達成している。また文章を書くことについても、期待正答率を上回っている。助詞の使い方で、「○○へ」の使い方について、期待正答率より下回っていた。読み取りについては、物語文で、場面の様子について、想像を広げながら読むことが、下回っており、ほかの問題と比べて低いので、課題である。	基礎的問題・応用的問題とも期待正答率を上回っているか、同程度の値で、ほぼ達成している。特に、「数と計算」「形の概念」「時計の読み方」が良い結果になっている。「集合数と、順序数」の区別の問題だけが、期待正答率に達成できない結果で、「なん個」と「なん番目」の違いが、確実ではない。文章題については、期待正答率を上回っているが、正答率は、ほかの問題に比べて、低くなっているので、文章題の学習も補充していく必要がある。		

⇩

学力向上のためのポイント			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
「物語文の読み取り」については、想像をふくらませ、イメージ豊かに読んだりする学習について、より重点的に、指導していく。助詞の使い方については、作文や短文の学習の際に、再度、「は」「を」「へ」の使い方について学習し、理解を確実にしていく。漢字については定着しているが、２年生の漢字については、学習する数も多く、使い方も多様になっているので、文章表現の中で使えることなど、助詞の使い方とともに、日常的に指導していく。	「基本的事項」については、本年度も引き続き確実に指導し、定着できるようにする。「数と計算」について、３桁の計算となり、つまずきが出てくる学習なので、習熟を確実にしていく。「集合数」については、「順序数」とともに、復習を確実にし、数の学習の際に、再度確認をしていく。文章問題は、式にあった文章問題考えることができることや、自分なりの問題を作って、式の意味がわかるように学習を深めていく。		

目黒区立東根小学校　第３学年

区学力調査の結果（前年度第２学年と比較）等から見られる成果と課題			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
書く能力、読む能力の達成率は昨年度を上回っている。しかし、言語についての知識・理解・技能においての達成率は昨年より下回っている。言語力を中心とした国語力全体の引き上げが大切である。	達成率が全体的に昨年度を下回っている。昨年度に比べ、活用力・数学的な考え方が下回っている。算数的活動を多く取り入れ、そこから考えられること、導き出せることなど、なぜ・どうしてと考え、考えたことを発表し、練り上げる。という活動を多く取り入れる必要がある。		

学力向上のためのポイント			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
辞典の引き方を学習しているので、こまめに辞書を引かせたり、読み聞かせなどの読書活動をしたりすることを通して、様々な言葉にふれる機会を増やしていく。さらに読み取りなどで、文章の横に書き込みをさせたり、それを学び合うことを行ったりすることによって、さらなる、国語力全体の向上を図っていく。	まず、基本となる知識・理解をしっかりと押さえる。その上で、計算練習などの習熟を「正確」に行わせることに力を入れていく。それと平行して、数学的な考え方の向上を目指す。そのためには、自分の考えを発表するだけでなく、友達の考えを理解し説明する活動や、よりよい考えに練り上げていく活動を多く取り上げていく。	３年生の学習は、学区域から目黒区へと広がる。地域の人々と触れ合ったり、実物や本物を直接見たり触れたりする機会を設けるようにする。また、基礎的な知識や、資料・地図を読み取る力を身に付けるために学習指導法・展開を工夫し、さらにわかったことや考えたことなどを新聞などにまとめ、表現力や資料を活用する力を養う。	問題解決型の学習を重視する。植物や昆虫の観察では、実物をよく見て、五感を使い、自分なりの表現をするように支援していく。実験単元については、なぜそう考えるのか根拠のある予想がたてられるように指導していく。さらに、実験結果について、自分なりの考察ができるように、指導していく。

目黒区立東根小学校　第４学年

区学力調査の結果（前年度第３学年と比較）等から見られる成果と課題			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
全体的に平均正答率が、期待正答率に達しており、良好である。特に話の内容を聞き取ったり、物語の内容を読み取ったりする力が優れている。 その反面、説明文の内容の読み取りや、漢字の書きとりにやや課題が残る。	全体的に平均正答率到達度が期待正答率を上回っており、大変良好である。昨年度、量感の体得、実際に体験する活動（算数的活動）を多く取り入れたこともあり、数と計算や数量関係の達成率は高い。図形に関しても、達成率が上がっている。		教科全体の平均到達度で見ると、基礎については期待正答率を上回り大変良好な結果であった。特に知識理解や観察・実験の技能面が優れていた。一方応用面では目標値を若干下回っており、「地球と宇宙」分野の誤答が多く、星空の見えにくい都心部の環境でどう意識づけるか課題である。

学力向上のためのポイント			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
日々の授業の中で、話す・聞く・活動を取り入れ、基礎的な力を付けていく。漢字の学習では、授業や家庭学習での繰り返し練習を行い、定着を図っていく。　また、自分の考えをもたせ、根拠を明確にして話したり、書いたりできるよう、指導を工夫していく。	基礎基本の力を付ける指導は、今後とも継続して進めていく。図形に関しても、引き続き操作的活動を多く取り入れ、感覚を豊かにする。また、算数的活動をさらに多く取り入れた学習を進めていく。また、生活や身近な題材から課題を作成し、算数を生活や学習に進んで活用しようとする態度を育てる。	４年生は、身の回りの生活や地域学習等の体験で身に付けてきた事柄を、社会的事象に関連付けてかかわらせて考えていくことが大切である。 出前授業や探検などの体験的活動を多く取り入れると同時に、資料を集め、調べていく学習意欲の育成と、それらを読み取り、適切に思考・判断する力の基礎を築く指導に努める。	身に付いた基礎的な事柄を元に、さらに発展的な内容を予想し、実験や観察をしながら確かめていくプロセスを身に付けさせることが大切だと考える。その中で試行錯誤の場を増やし、問題解決に向けて、自分の考えを明らかにする過程を通して、「理科とは楽しい」という気持ちをはぐくむよう努める。

目黒区立東根小学校　第５学年

区学力調査の結果（前年度第４学年と比較）等から見られる成果と課題			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
どの観点においても、期待正答率を上回っている。 特に、書く能力が、昨年度の達成率を下回っている。 話す・聞く能力は昨年度の達成率を下回って、中でも、「自分の考えがわかるように適切に話す。」「考えの相違点や共通点を考えながら話し合う。」能力に課題がある。	どの観点においても、期待正答率を上回っている。 昨年度に比べ、「数学的な考え方」「数量や図形についての知識理解」の伸びが大きかった。具体的な操作を通して考察したり、学んだことを実際の生活に生かしたりした指導の成果と考えられる。 小数と整数が混ざった計算で正答率が低く、小数のしくみを確実に理解することが課題である。		どの観点においても、期待正答率を上回っている。 「観察実験の技能・表現」が昨年度の達成率を上回った。試行錯誤の場を増やし、自分の考えを明らかにしながら問題解決に向けて実験を行ってきた成果と考えられる。 物質とエネルギーの領域では課題がある。 他教科に比べ、関心・意欲が低い点も課題である。

学力向上のためのポイント			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
「聞く」能力を高めるために、自分と友達、友達と友達との考えを比べながら聞く学習を積み重ねていく。「話す」能力を高めるために、自分の考えを、一度書き出し整理してから話すことや、話型の指導などを行っていく。	引き続き、少人数指導を生かし、個に応じた指導で、基礎的・基本的な知識・理解の定着を図る。 小数の仕組みを理解することに重点を置くとともに、計算のときにはその仕組みを理解して位取りができるよう、練習を重ねていく。	５年生では、地域や都道府県から、日本や世界へと視野を広げた学習になる。児童が、学習内容が自らの生活とどう関わっているのかを、常に意識して学習できることが大切である。 そのために、児童にとって身近な教材や資料を取りあげていく。	物質とエネルギーの学習では、昨年度の復習を行う。 どの領域においても、観察、実験など、具体的な操作を多く取り入れ、実感を伴った理解ができるようにするとともに、関心・意欲を高めていく。

目黒区立東根小学校　第６学年

区学力調査の結果（前年度第５学年と比較）等から見られる成果と課題			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
全体的に期待正答率は上回っており、読解力や基礎的な言語事項は身に付いている。しかし、応用的な言葉の学習では適切な漢字や言葉を使うことや、文脈をとらえることを苦手とする。また、作文では、明確に表現するために、文章の組み立てを考えて書く力が今後の課題である。	全体的に、期待正答率及び区平均正答率を上回っており、日頃の学習の一定の成果を得ることができた。 期待正答率を上回っていたものの、正答率が低かったのは「図形」の移行部分と「量と測定」であった。特に選択でなく記述になると正答率が 50%を切る問題もあったので、算数的な考え方や表現力が課題である。	「社会的事象についての知識・理解」や、「観察・資料活用の技能・表現」の平均達成率が高い。また、「我が国の農業や水産業」についての学習は達成率が高いが、工業生産や日本の貿易などについての指導に課題が残った。	どの領域も全体的には目標値を上回っている。観察や実験を取り入れながら知的好奇心や思考力の育成に取り組んだ成果が出てきている。 しかし、観察や実験をするだけになっている部分もあるので、実験前に予想を立てたり、結果をもとに考察したりすることが課題である。

⇩

学力向上のためのポイント			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
いろいろな種類の文章に触れ、叙述をもとに、的確に読み取ったり、想像したりし、自分の思いをもたせる。友達の発言をよく聞き、自分が気付かない考え方や表現の仕方を取り入れるよう指導する。また様々な言語活動を取り入れ、言葉に対する感性を高める。語彙を広げたり、漢字を正確につかったり、構成を考えて書いたりする力を身に付けさせる。	算数は子どもたちの習熟度に個人差が出やすいため、引き続き習熟度別の少人数指導を展開していく必要がある。 また、問題を解く基礎的な力の育成と並行して、今後は自分の考える力や表現力の育成にも重点を置いていく必要がある。児童同士の学び合いを積極的に行い、他人の考えにふれる機会を作っていく。	より充実を図るために、「社会的な思考・判断」では、資料の読み取りを丁寧に行い、事実をイメージ豊かに捉えるようにする。歴史や政治を学習していく中で、我が国の工業生産や貿易などについても関連付けながら学習を進めていく。また、児童が身近に感じられるような資料を提示するなどして、実感をもって問題を捉えられるようにしていく。	知識として理解しているが、実際に実験や観察を行うことが難しく、実感を伴って、理解しているとは言い難い側面がある。そこで実験前に、個々で予想し、話し合いを十分にした上で実験に臨むようにさせる。その上で予想が合っているかどうかを確かめるために実験を行い、そこからの思考を大切にする。自分なりの根拠に気付く豊かな発想を大切にしていく。

Ⅲ　目黒区立東根小学校　第１学年の授業改善プラン

成果と課題			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
１年生は、学力テストは未実施である。丁寧に字形に気をつけて文字を書こうとする児童が多い。平仮名はほとんど読めるが、まだ何人か一文字一文字考えながら読む児童がいる。読書は全体的に好きな児童が多いが、集中できる時間の差は大きい。	１年生は、学力テストは未実施である。数にたいする関心・意欲はあるが、個人差が大きい。１０までの数の認識・加減が十分でない。まとまって和をとらえることができない児童もいる。足し算を、多くの児童が数えたりしている。いろいろな場面をとらえて、数そのものに触れさせていく必要がある。		

学力向上のためのポイント			
国　　語	算　　数	社　　会	理　　科
日ごろから丁寧に文字を練習し書くことを徹底する。感想カードなど書く時間を十分にとる。読みは音読の時間を多くとり、声、速さにも気を付けさせる。読書は、本の紹介をこまめにし、読み聞かせも導入して本に興味をもたせ、読書に親しみ、本の好きな子どもを増やしていく。	数の合成・分解、まとまって和を数えることを繰り返して練習する。一から数えずに途中からも数えられるように繰り返し練習する。ドリルなどで繰り返しの練習をして定着を図る。算数的活動を多く取り入れ、カード遊びやゲーム化した遊びなどで数への関心・意欲を高めていく。		